

知財業界 50 年、 発明くんの回想録

発明くんが知財業界にお世話になったのが 1972 年である。
本年で 50 年を迎えた。発明くんが、これまで発信してきた
「知財改革」に関する能書きを「知財業界 50 年、発明くんの
回想録」で、整理しながら断捨離することにした。

この回想録は、知財業界で、お世話になった発明くん 50 年
の歴史と日本アイアールの社史を重ね合わせながら、多くの人
との出会いと助けで“なんとか 50 年やって来られた”という感
謝の気持ちと、新たに「知財改革」についての能書きを追加し
た。また 1970 年代以降、知財業界の変わり様を知ることも決
して無駄なことでは無いと思う。

(2023年1月21日 発明くん)

目次

第一章 知財 50 年、発明くんの知財年表

—日本アイアールって、どんな会社—

第2章 知財業界は、面白くも、苦しくもある

—「高度経済成長期」での良き時代を体験—

- 1.1972 年、知財業界に足を踏み入れる
- 2.1972 年代に、発明くんが見た知財業界の景色
- 3.「情報機材部」の特許データから派生した商品サービス
- 4.自分の営業ノルマを日本アイアールで賄う
- 5.「特許複写サービス」で、何とか食つなく.
- 6.日本アイアール複写センターの設立
- 7.苦し紛れで、自分が作った会社へ転出
- 8.初めて出した新商品、特許出願管理ソフト(MASYS-PA)
- 9.「知的財産活用研究所」を設立
- 10.「中国知的財産」の関連事業を始める

第 3 章 知財業界から学んだ「身のほど経営」

—世の中変われば、何もかもが変わる—

- 1.「パトリス」民事再生法の適用を申請
- 2.日本アイアール社のビジネスモデルが崩壊
- 3.座して待つより、活路を見出す
- 4.知財部門の働き方が変わる、仕事が変わる
- 5.デジタルを使い熟し、アナログを鍛える
- 6 身の丈を超えないで、身の程で生きる

第4章 知財のグローバル化で、どうする日本の知財業界

—情報は、必要とする人のところへ集まる—

1. 経営資源である「情報」と、どう向き合うか
2. 失われた「インテリジェンス能力」を復活させる
3. 「知財経営」で役立つ、「IP ランドスケープ」づくりに挑戦する
4. 「知財経営」を推進できる「知財人材」を育成する
5. 世界で通用する、戦える強い特許明細書を作る
6. 技術者への知財教育のやり方を変える
7. 研究開発部門の「知的基盤」構築を急ぐ
8. あとがき(1) & (2)

